

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日, 令和5年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この3年間、コロナ禍の中で、通常に近い生活をして頂けるようにスタッフ同士で考え工夫を... 外出行事やご家族様との面会が制限される中、人がいない場所(大きな公園、河辺のフリースペース等)へ外出や散歩、季節の行事(豆まき、ひな祭り、クリスマス他)...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道12号線に程近い南が丘地区の閑静な住宅街にあり、交通、買い物に至便な環境下に立地している。職員は一人ひとりの持てる力を大切に、家事仕事や体操、趣味など、できる限り今までの生活が継続できるようにしている。コロナ禍により、地域交流や外出行事等に制限はあるが、散歩で近隣の人達とふれ合い、公園で外気浴をするなど、生活全般が楽しく、且つリハビリ効果につながる活動の充実に努めている...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Rows 56-62 with detailed descriptions and evaluation points.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングに提示しています。スタッフ会議や運営推進委員会で再度確認し、話し合い実績につなげています。	運営理念を事務室やリビングに掲示し、意識付けしている。主にスタッフ会議の場で、理念への理解を深めており、日々の実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では、町内行事に入居者様と参加していますが、新型コロナウイルスの感染症の影響により、中止になっております。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持の方法について職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、散歩など積極的に行い、近隣に介護施設があることを理解していただいています。介護相談など気軽に来訪できるように、チラシを配布したりしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス蔓延の為、収束してから情報を発信していきます。書面が出た内容については、課題解決をし意見をスタッフに報告しています。	現在は書面開催となっているが、通例では家族、地域代表、行政の参加を得て、定例で開催している。運営状況やヒヤリハット・事故等、現状の問題点まで論議され、参加者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは管理者が報告書を持参し、説明助言をいただいています。Zoomによる地域包括支援センター主催の研修会や委員会に参加させていただいています。	役場から適時、情報提供・アドバイスを受けている。定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は急な状況場面を除き、行なわない方針です。スタッフには身体拘束の定義を把握してもらい、正しく行うための委員会や研修などを受けています。	身体拘束防止委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合えるよう職場環境にも配慮しながら、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内部外部での研修会には参加しています。虐待防止についてはスタッフ間で会議でのカンファレンスや朝礼で見直す機会を作り虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウィルス蔓延で、自粛状態になっているので研修に参加ができない状況にあります。今後は内部研修を行っていく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を基に、ホームの理念、グループホームの役割、生活支援、リスク等の説明を行い、不明点がある場合はその都度対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、隔月でホームのお便りを発信し、入居者の様子がわかるようにしています。日常の様子もこまめにメールやLINE等のツールを使用し、意見や要望を言いやすい環境を構築しています。	苦情等への組織的対応を整えるとともに、お便りやLINE、YouTubeの活用で利用者の日常を説明し、家族の意向を傾聴して、理解や納得を得るよう努めている。また推進会議でも意向を聞き取り、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や業務の他に、ラインなどのツールを使い、職員の提案がしやすい環境を心掛けています。定期的に個人面談を行い、意見・提案を聞き、実行するようにしています。	定例の職員会議の場で各職員の専門的な行動観察・意向や運営上の意見等を受け止め、組織的な運営や個々の資質向上に活かしている。また、人事考課の過程で個別の意向・目標の達成具合の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与増額を考え、処遇改善加算申請などを行い、それに伴うキャリアパスを就業規則で定めて評価しています。有給休暇の取得ができるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の参加を促し、受講できるように配慮し、外部研修はリモート研修で参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域包括支援センター主催のグループホーム交流会等、定期的に参加し、ネットワークの関係を作っています。職員の参加を踏まえたWeb研修や、催事など行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に十分な見学や面談等ができる機会を設けています。ご本人の不安や要望に応え、繰り返し確認をし、ご納得してから入居して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思い、要望を十分に受け止め、相談や確認をしながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様のお話を十分にお聞きし、入居者様やご家族様の要望を反映するように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設は入居者様の家であることを自覚し、入居者様本位の自由で安全な生活環境を提供しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを伺い、ご本人が充実した生活を送れるよう、ご家族と協力しながら共に支えあう関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、お墓参りや外泊、外食などの時間を作っていたが、コロナ蔓延の為去年同様に難しくなっています。手紙や電話、写メなどで施設内の状況をわかるようにしています。	コロナ禍で難しい面もあるが、できる限り対面で会話ができる面会環境を提供し、馴染みの関係継続に努めている。手紙やLINE、YouTubeでの定期的な生活状況の発信も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が円滑にいくように、関係を把握し、座る位置など配慮しています。時には仲介に入りコミュニケーションが図れるようにスタッフ同士で情報を交換し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後には、ご家族様に状況をお伺いしている医療機関や、他施設に転移された方は、相談員などに状況をお伺いしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様またはご家族様からの思いや意見など伺い取り入れ、日誌にはご本人の言った言葉を記入し、職員間で入居者様の思いがわかるようにしています。	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な希望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や生活状況を、入居者様やご家族様からお伺いし、入所後も変わりなく生活ができるように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノート、口頭による伝達を濃いものにして、入居者様の好き嫌いの把握、日課などの時間帯、出来ること出来ないことなどを把握し、スタッフ間の共有をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子や日常の会話から、要望を聞き出せるように努め、一人ひとりにあった介護計画を作成しています。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医からの意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の個人日誌の他に連絡事項や申し送りノートで情報共有と介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の差し入れをお配りしたり、ぬり絵やパズルなど希望があれば入居者様に提供し、娯楽をして遊んだり、コロナ渦ではできる事が限られているが、制限を作らず幅を広げています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	室内で楽しめる事、入居者様個々の好きな事を考慮し、こちらが提供する課題なども楽しんで頂くように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が苦手な入居者がいるため、病院に相談し近況報告のみなどで対応している入居者もいます。往診でも同様で、現状を見て頂きつつ入居者様の変化によって薬の調整を行っています。	かかりつけ医への受診は利用者と家族の意向に応じて支援している。月2回の訪問診療にあっても、適切な医療を受けられるよう配置の看護師が情報を管理し、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時の医療機関との連携を取り、入院中の様子などの把握、帰所後の対応の等の指示も綿密に受けています。薬については施設の看護職員と、日常の状態などを共有し調整を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院のソーシャルワーカーや看護師との連携を取り、退院時や退院後の状態や対処法を共有しています。その際ご家族様には今後の意向などの相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に、重度化に対する指針を説明し、入居者様の病状の変化に伴いご家族様に相談しています。終末期に関しては、早い段階でご家族様に相談し、今後の方針を相談するようにしています。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、緊急時のマニュアルを作成し、職員全員に理解把握するように努めています。新人スタッフに関しては、過去に合った事例などを伝え、対応方法の指導をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年二回の防災総合訓練を行い、夜間日中の対策をしています。災害時には近隣住民の方々に協力をお願いしており、災害対策の物品や水食糧を確保しています。	消防署の指導を得ながら、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。備蓄品や近隣住民との協力体制も含め確認を行い、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活は、入居者様個人のプライベートが少ないため、居室に入るときなどの対応をスタッフに指導しています。入浴や排泄時など、尊厳を損なわないように注意喚起しています。	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの提供する物は本人に確認するようにしています。欲しいものなども訴えがあれば即座に対応し、ご本人の希望を言える状況づくりを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気分や機嫌を考慮し、入浴日の変更やその他の誘導を気遣うようにしています。レクなども同様で、気分が乗らない時などは休ませて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等で着物を着たり、楽しめる衣装を着て頂いたり、普段の自分と違う事を楽しんで頂いています。月一回の訪問美容を受けて頂き、健常者と変わらない日常を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の好きなもの嫌いなものを把握して提供しています。なるべくしっかり食べて頂けるように、食材カットや盛り付けなどを考えています。テーブル拭きなど簡単なお手伝いをして頂いています。	献立は家庭さながらに冷蔵庫の中身と相談し、季節感を大切に利用者の希望を取り入れたものとなっている。感染防止に留意しながら、下準備から片付け等、好きなお手伝いをお願いし、食事を楽しみある時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は個人日誌に記載されています。食事や水分が少ない時には主治医に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けしケアして頂いています。拒否する場合は、職員間で情報共有し、入居者様への声掛けの工夫をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにより一人ひとりのパターンを把握しトイレで排泄ができるように支援しています。排泄状況に応じた水分や食事を提供しています。オムツ等は一人ひとりの体調にあったものを変化により検討しています。	トイレでの排泄を目指しており、利用者一人ひとりの排泄サインを見逃さずに誘導等、支援し、排泄の自立を目指して取り組んでいる。衛生用品は体調、体型に合ったものを随時見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排便パターンを把握することでご本人の負担にならない下剤の使用に努めています。必要に応じて医療機関と相談し、予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至には柚子をいれて、ゆず湯を楽しんでいます。入浴日に外出予定や病院受診がある場合は、入浴日を変更し入浴をして頂いています。	毎日お湯をはり、週に2回以上入浴できるように配慮し、入浴剤を使用する等、楽しい入浴の時となるよう取り組んでいる。拒否傾向の利用者には時間や介助者に変化をつける等、無理強いすることなく、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のリズムに合わせていますが、夜間、安眠に繋がるように日中レクリエーション活動に力を入れて昼夜逆転にならないように工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	トリプルチェックにて内服支援を行っています。服薬の情報は、ファイルし常に確認できるようになっています。変更がある場合は申し送りノートや朝礼で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの可能な範囲でお手伝いや役割をもち張りのある生活ができるように支援しています。毎日体操やレクリエーションを工夫して行っています。外部から月2回体操の先生を招いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症により、あまり外出出来ない状態ですが、夏は散歩に出かけたり、人の少ない公園に外出したりしています。	通例では季節のドライブ等を年間計画に基づいて実施し、普段からの外出も買い物等、気楽に出かけられるように努めている。また散歩時はご近所さんと気軽に会話を楽しむ等、日常的に行えるように外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の時はご本人に自身の財布を持って頂き、ご自身で支払いをして頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人に年賀状や暑中見舞いなど代筆をし様子がわかるようにしています。ホームの電話を使用し、ご家族様やご親戚に電話することがあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾り付けを入居者様と一緒に装飾しています。日常の写真の掲示などで外部の方に様子が分かるようにしています。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。日常の生活風景の写真掲示や、利用者と共に作成した作品を掲示する等、くつろげる空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置しその日の気分に合わせて過ごしてもらえるように工夫しています。夏はウッドデッキで日光浴をして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用されていた馴染みのある家具などを設置し安全な居室作りを行っています。	居室には利用者の導線に留意された配置となっており、長年愛用した家具も見受けられ、家族写真が壁に貼られるなど、落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は廊下やトイレに手すりを設置し、移動の際には安全に自立歩行ができるように支援しています。できること、できそうなこと、できないこと、を見極めスタッフ同士で情報交換し、少しでもできることを増やす工夫をしています。		